

実践報告 1

コミュニケーション英語 I におけるペア・ワークによる 言語活動と評価 ―積極性の育成に重点をおいた評価の流れ―

愛知県立名古屋西高等学校 教諭 遠藤 啓史

1 実践のねらい

本校は全日制普通科の高校であり、平成27年度に創立100周年を迎える伝統校である。かつては自主自立、自由闊達の校風であったが、その伝統を大切にする一方で、数年前から、「生徒の知性を高め、心身を錬磨し、調和のとれた人格の形成に努める。質実・剛健・勤勉の精神をもってよりよい校風の樹立に努め、平和で民主的な日本の未来を切り拓く人間を育成する」を教育目標として、生徒指導の充実にも力を入れている。

(1) 生徒の学びの現状

真面目で素直な気質だが、自ら主体的に考え、課題に取り組む態度は十分とは言えない。英語の授業においては、音読活動などは積極的に行うが、自己表現活動には消極的な生徒が多い。

(2) 指導と評価における課題

英語の授業の中で言語活動を実施しているが、生徒の取組は活発であるとは言えない。そのため、言語活動において評価を実施するには難しさがある。

(3) 身に付けさせたい力

まずは自己表現活動に対する積極的な態度を身に付けさせたい。本実践では、特にどのように言語活動に積極的に参加させるかに焦点を当て、生徒が積極的に自己表現する力や態度を育成するための指導と評価の在り方を探っていく。

2 実践の計画

(1) 学習指導計画

ア 言語活動の工夫

単元の内容を学習した後、メモを基にした発表活動（ペア・ワーク）を通して自分自身の考えをまとめさせ、最終的にエッセイを書かせる。メモを作成する際には、英文を書くのではなく、必要最小限の項目を書いたメモにするように指導する。言語活動に消極的な生徒が多いことから、発表の準備をさせると台本の作成になってしまうことが多い。台本の暗唱にならないように、語数の少ないメモを用いて、自分の言葉で発表させるようにする。

また、発表が1回だけでは、十分な質のものになるとは期待できないため、自信を養うための工夫として、同じテーマで発表と修正を繰り返し、少しずつ完成度が高くなるような手順を踏む。

さらに、活動に積極的に参加させるために、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度（以下、『関心・意欲・態度』とする）」の配点を「外国語表現の能力（以下、『表現の能力』とする）」よりも高くし、配点を含めたルーブリックの内容を事前に生徒に伝える。本実践においては、メモを基にした発表活動（ペア・ワーク）とワークシートを評価対象とする。

イ ワークシートの工夫

本文の内容をフローチャート形式【資料1】でまとめた。本文をフローチャート形式でまとめることにより、要点の捉え方と整理の仕方を理解させ、生徒自身が発表のメモを作る際にも活用できるように意図した（単元全体のワークシートは【巻末資料】を参照）。

【資料1 ワークシート】

While-Reading Task 2 : Fill in the blanks of the mapping below.

Our brain
 (1) The _____ brain process images.
 (2) _____

↓

The _____ brain receives information from the _____ field of vision.

||

We mainly see the _____ side of someone's face.

Example : Mona Lisa = famous for _____ smile
 reason : _____

↓

it gives us a strange impression

(2) 評価計画

ア 活動の観察

「自分のことについて、発表することができる」（表現の能力）と「ペア・ワークにおいて積極的に自分の考えを伝えようとした」（関心・意欲・態度）について、ルーブリック【資料2】に基づき、授業中の活動を観察して評価する。「表現の能力」についての評価は、授業の中で3回の発表機会を設定したが、1回目では多くの生徒が評価するのに十分な完成度にはならないだろうと予測されたため、3回目の活動のみを評価対象とする。「関心・意欲・態度」についての評価は、1～3回目の活動における生徒の様子やその後のペアでの修正を加える様子を評価対象とする。

【資料2 発表活動（ペア・ワーク）のルーブリック】

観点	評価規準	採点基準（ ）内は点数	Score	Total
外国語表現の能力	自分自身の脳の特徴についてまとめ、発表することができる。	A (3):自分の考えについて、常に聞き手を意識して、ほとんどメモを見ることなく発表できている。 B (2):自分の考えについて、しばしば聞き手を意識しながら発表できている。 C (1):自分の考えについて、聞き手を意識した発表になっていない。	/3	

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペア・ワークにおいて積極的に自分の考えを伝えようとした	<p>A (5): 1 回目の発表の機会から積極的に自分の考えを伝えようとしている。</p> <p>B (3): ペアでの修正を踏まえて、2 回目の発表の機会に積極的に自分の考えを伝えようとしている。</p> <p>C (1): 3 回目の発表の機会から積極的に自分の考えを伝えようとしている。</p>	/5	/8
---------------------	-----------------------------	---	----	----

イ ワークシート

発表で活用したメモを評価対象とした。メモについては、英文が書いてあるものは、単なる英文の読み上げになってしまうので、減点の対象とした。

(3) 単元構想

ア 使用教科書・単元名

BIG DIPPER English Communication I (数研出版)

Lesson 6 Secrets of Our Brains

イ 単元の目標と言語活動

【単元の目標】

人間の右脳と左脳の働きの違いや、人間の脳の認識の仕組みについて学び、理解する。自分自身が「右脳思考型」か「左脳思考型」かについて考え、メモを基に発表する。

【言語活動】

- ・本文の内容をフローチャート形式でまとめ、要約する。
- ・自分が「右脳思考型」か「左脳思考型」かについて、メモを基に発表する。
- ・メモを基にエッセイを作成する。

ウ 単元のCAN-DO (4技能ごとの学習到達目標の設定)

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法
・簡単なメモを基に、聞き手に伝わるように話すことができる。	・活動の観察	・英文を読んでその内容を英語でまとめることができる。 ・自分自身の脳の特徴についてまとめ、発表することができる。	・ワークシート ・評価シート	・相手の発表を聞いて内容を理解し、適切に質問・評価をすることができる。	・評価シート	・脳の仕組みに関する英文を読み、大意を把握することができる。	・ワークシート

エ 単元の評価規準（4観点ごとの評価規準の設定）

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	①ペア・ワークにおいて、互いに協力しながら会話を続けている。	①簡単なメモを基に、聞き手に伝わるように話すことができる。 ②英文を読んでその内容を英語でまとめることができる。 ③自分自身の脳の特徴についてまとめ、発表することができる。	①脳の仕組みに関する英文を読み、大意を把握することができる。 ②相手の発表を聞いて内容を理解し、適切に質問・評価をすることができる。	①比較表現や現在完了形の基本的な使い方を理解している。
内容のまとめ	①話すこと	①話すこと ②書くこと ③話すこと	①読むこと ②聞くこと	①書くこと
評価方法	①活動の観察	①活動の観察 ②ワークシート ③活動の観察，ワークシート	①ワークシート ②活動の観察，評価シート	①定期テスト

オ 指導と評価の計画

時間	ねらい，学習活動，指導上の留意点	評価の観点	評価方法
1	<p>[ねらい]</p> <p>単元のテーマである脳の仕組みについて関心をもたせ、動機付けをする。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 他人の顔を見るときに、左右のどちら側を最初に見るか英語で答える。 モナリザについて知っていることを英語で答える。 右脳と左脳の働きを知っているか英語で答える。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動1では、ペアになり、パートナーの顔を見るときに左右のどちら側を先に見るかについて話し合わせ、生徒に興味をもたせる。 活動2，活動3では、最初に生徒が各個人で考え、その後、ペア・ワークで情報を共有し、最後に各ペアに発言させ、クラス全体で情報を共有する。 	<p>表現</p> <p>表現</p> <p>表現</p>	ワークシート

2～ 5	<p>[ねらい]</p> <p>本文の新出単語や新規文法項目の確認と概要の把握を行う。Part 1と2, Part 3と4をそれぞれまとめて、一つのテキストとして扱う。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新出単語を確認する。 2 新規文法事項を確認する。 3 本文の概要把握を行う。 <ol style="list-style-type: none"> (1) While-Reading Task T or F (2) While-Reading Task Questions 	<p>知・理 知・理</p> <p>理解 理解</p>	<p>ワークシート 定期テスト</p>
6	<p>[ねらい]</p> <p>本文の全体の内容を英語でフローチャート形式でまとめ、それを基に要約し、本課単元全体の概要を確認する。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 While-Reading Task 5 Mapping 2 While-Reading Task 6 Summary 	<p>理解 理解, 表現</p>	<p>ワークシート ワークシート</p>
7	<p>[ねらい]</p> <p>自分自身が「右脳思考型」か「左脳思考型」か、メモを基に発表する。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 英語で発表のメモを作成する。 2 メモを基に発表する。(ペア・ワーク 1 回目) 3 ペアで互いの発表について修正する。 4 ペアを替えて、メモを基に発表する。(ペア・ワーク 2 回目) 5 ペアでお互いの発表について修正する。 6 ペアを替えて、メモを基に発表する。(ペア・ワーク 3 回目) 7 メモを基にエッセイを作成する。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動 1 では、長い文が書かれた台本ではなく、簡単なメモを作成するように指導する。 ・活動 3, 活動 5 ではペアで積極的に関わり合いながら修正を加え、難しい表現については教師に質問するように促す。 	<p>表現, 関・意・態 (1～6)</p> <p>表現 (7)</p>	<p>ワークシート 活動の観察 ワークシート</p>

3 実践と考察

(1) 授業における言語活動の取組状況（ペア・ワークを中心とした活動）

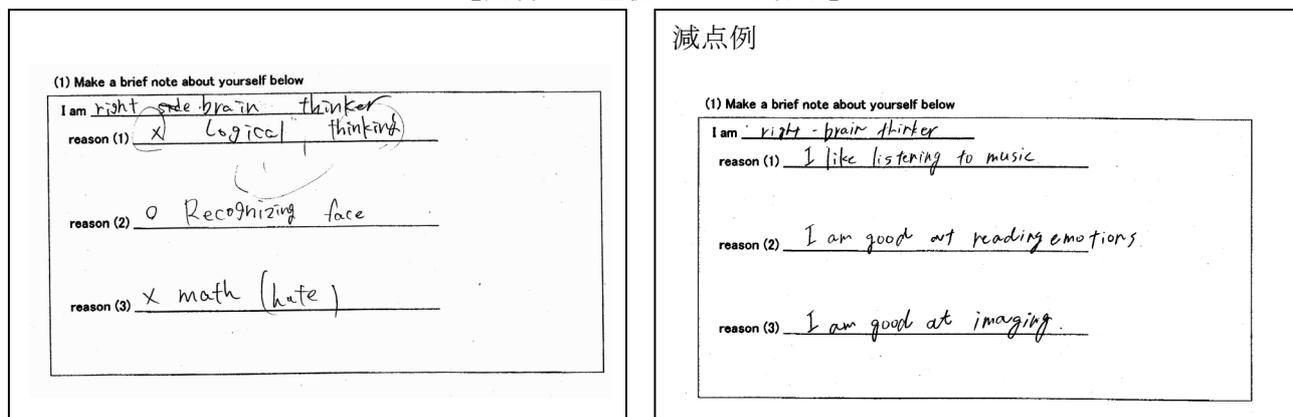
各自で作成したメモを基に3回の発表活動を行った。1回目の発表では途中で止まってしまったり、声が小さかったりする生徒が多く見られた。事前に「関心・意欲・態度」に評価の重点を置いていることを伝えていたため、たどたどしくてもなんとか伝えようとする姿は見られた。その後、1回目の修正をペアで行わせた。その際には、互いの分かりづらい表現や、うまく表現できなかった箇所についての修正に協力して取り組む様子が見られた。ペアの相手を替えて2回目の発表を行わせた。1回目より活発な言語活動が見られた。その後2回目の修正を加えた後で、再びペアを替え、3回目の発表を実施したが、多くの生徒がしっかりと発表することができていた。

(2) 評価の実際

ア パフォーマンス課題とルーブリック

14名の生徒を対象とし、「表現の能力」については3回目の活動を、「関心・意欲・態度」についてはペアでの修正を加える活動を観察し、ルーブリックに基づいて評価した。また、発表に当たって作成したメモを回収【資料3】し、授業後に評価した。メモが文になっている生徒は1点減点した。

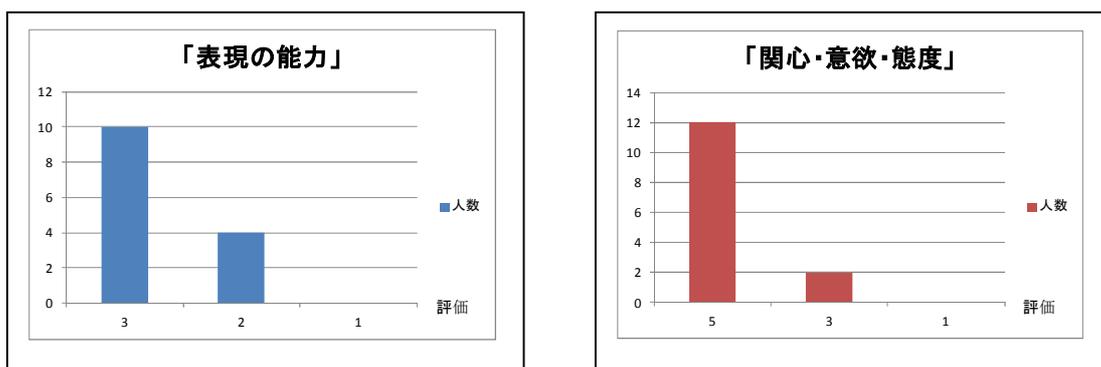
【資料3 生徒のメモの様子】



イ 評価結果の分布

評価結果の分布については分布表【資料4】に示したとおり、「表現の能力」、「関心・意欲・態度」とともに総じて高い評価であった。「表現の能力」については、3回目の発表を評価の対象としているため、多くの生徒がそこに至るまでの活動を通して、上達した結果と考えられる。また、「関心・意欲・態度」の得点が高くなったのは、事前にルーブリックを生徒に示したことにより、意識的に活動に積極的に参加したためであると考えられる。

【資料4 評価分布表】



ウ 生徒へのフィードバック

評価の項目ごとの点数とその合計点数と、生徒が発表活動後に書いたエッセイにコメントを付け、添削したものを返却した。これにより、正しい表現を身に付けさせるとともに、次回の活動への動機付けを促した。

(3) 事後アンケート

単元の活動を終えた後で、事後アンケート【資料5】を実施した。その結果【資料6】から質問2と質問3の回答を比較すると、質問2では「5 強くそう思う」と「4 ややそう思う」がほとんどいなかったが、質問3では多くの生徒が「5」と「4」と回答した。同じテーマで発表を複数回実施することで、自信をもって発表活動に取り組めたことがうかがえる。

また、質問4・5・6の回答から、ルーブリックを事前に示したことにより、その後の活動に大いに影響が表れており、ペアの相手と積極的に関わってこうと努力したことがわかる。自由記述の回答にも、「何に気を付ければいいのか事前に分かっていたので、その点を意識しながら取り組むことができた」というようなコメントが多く見られた。ルーブリックを事前に示すことは、活動を通して身に付けてほしい力についての生徒へのメッセージになると感じた。

【資料5 アンケート質問事項】

アンケート 1～5で答える

(5:強くそう思う 4:ややそう思う 3:そう思う 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない)

	質問事項	回答
1	効果的に発表のメモを作ることができた	
2	発表1回目 自分の伝えたいことをうまく伝えることができた	
3	発表3回目 自分の伝えたいことをうまく伝えることができた	
4	パートナーの発言を積極的に聞くことができた	
5	パートナーと積極的に関わって発表の修正をすることができた	
6	ルーブリックを事前に示されることが活動への取り組む姿勢に影響した	

【資料6 アンケート結果】

	回答				
	5	4	3	2	1
質問1	16%	5%	53%	26%	0%
質問2	0%	11%	53%	26%	11%
質問3	11%	42%	37%	11%	0%
質問4	26%	47%	26%	0%	0%
質問5	21%	21%	37%	16%	5%
質問6	11%	37%	37%	11%	5%

(4) 考察

ア 実践のねらいの達成状況

ルーブリックを事前に示したことと、評価の配点において、「関心・意欲・態度」に比重をかけたことにより、生徒の言語活動への取組はより積極的になった。この点においては意図したとおりになった。

「表現の能力」については、同じテーマで発表と修正を繰り返すことで、生徒の英語の質が改善され、3回目には相手にしっかり伝わる発表をすることができていた。「関心・意欲・態度」については、発表活動の間にペアでの修正を加える時間を十分に取ったことにより、徐々に積極的に発表できるようになっており、今回の単元のねらいは達成できたと思われる。

イ 指導手順について

発表の事前準備について、メモの作成方法をより細かく指導すべきであった。理由についての言及が少なく、語数の少ない発表になる生徒が多く、その結果、それぞれのペアの発表時間が短くなってしまった。理由を複数挙げることで、具体例を提示することなど、発表を説得力のあるものにするための工夫を指導すべきであった。

ウ 評価方法について

ルーブリックを作成し、評価基準を設定したことで、評価場面で迷うことは少なかったため、信頼性は高かったと考える。しかし、複数の教員が評価に携わる際には、十分なすり合わせが必要になるだろう。

4 成果と課題

生徒の多くは言語活動に消極的であるので、同じテーマで発表と修正を繰り返し、その上で3回目の発表を評価した。その結果、「表現の能力」については、多くの生徒が評価Aを得ることになった。しかし、2回目の発表の段階で、評価Aになっていた生徒もいた。発表機会を複数回設けるのであれば、その各回とその完成度で評価基準を設定し、重層的にルーブリックを作成していくことも考えられる。

また、もう一つの課題として、生徒の努力によって3回目で目標を達成しても、今回のルーブリックでは評価Cとなってしまった。時間がかかったとしても、本時の目標は達成できているので、その点を高く評価できるようなルーブリックの工夫が必要であると思われる。

参考文献等

- 文部科学省(2009)『高等学校学習指導要領』文部科学省
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター(2012)『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(高等学校 外国語)～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～』国立教育政策研究所

【巻末資料 ワークシート】

CAN-DOs

- (1) 原形不定詞が用いられている文を理解できる。
- (2) ディスコースマーカ―を理解し、効果的に読むことができる。
- (3) 脳の仕組みについて学び、自分は右脳型か左脳型か述べることができる。

Pre-Reading Task 1 : Answer the questions below.

- (1) When you see someone's face, which side of the face do you see first?

- (2) What is Mona Lisa famous for?

- (3) What does right brain control? How about left brain?

- (4) Which side of your brain is stronger?

Text

Look at the pictures below. Do they show a man or a woman? If you have to choose, you may say that Picture 1 is a man and Picture 2 is a woman. Actually, in Picture 1, the left side (A) is a man's face and the right side (B) is a woman's. Picture 2 is just a mirror image of Picture 1.

Why do the pictures look different? Most people process images with the right brain. Also, each side of the brain controls the opposite side of the body. This means that the right brain receives information from the left field of vision. So, people mainly see the right side of the other person's face, even if they think they are looking at the whole face.

Now, look at Mona Lisa by Leonardo da Vinci. The woman in the picture is famous for her mysterious smile, but why does her smile look mysterious? It is because only the left side of the woman's face (B) is smiling. We feel someone is smiling only when his or her right side is smiling, so the painting gives us a strange impression. By using this effect, da Vinci makes us wonder.

What does this mean for you? When people look at you, they mainly see the right side of your face. Even if you do not put on your makeup properly or shave cleanly on the left side of your face, some people may not notice.

While-Reading Task 1 : Answer the following T or F questions.

- 1 Both Picture 1 and Picture 2 are half of a man's face and half of a woman's. _____
- 2 Everyone gets information from the right field of vision. _____
- 3 The woman in Mona Lisa is smiling only in the left side of her face. _____
- 4 People may not notice much about the left side of other people's faces. _____

While-Reading Task 2 : Fill in the blanks of the mapping below.

Our brain

(1) The _____ brain process images

(2) _____



The _____ brain receives information from the _____ field of vision.

||

We mainly see the _____ side of someone's face.

Example : Mona Lisa = famous for _____ smile

reason : _____



it gives us a strange impression

CAN-DOs

- (1) 原形不定詞が用いられている文を理解できる。
- (2) ディスコースマーカ―を理解し、効果的に読むことができる。
- (3) 脳の仕組みについて学び、自分は右脳型か左脳型か述べることができる。

【本時の言語活動のルーブリック】

観点	評価規準	採点基準 ()内は点数	Score	Total
外国語表現の能力	自分のことについて、発表することができる。	A(3):自分の考えについて、常に聞き手を意識して、ほとんどメモを見ることなく発表できている。 B(2):自分の考えについて、しばしば聞き手を意識しながら発表できている。 C(1):自分の考えについて、聞き手を意識した発表になっていない。	/ 3	/ 8
関心・意欲・態度	ペア・ワークにおいて積極的に自分の考えを伝えようとした。	A(5):1回目の発表の機会から積極的に自分の考えを伝えようとしている。 B(3): ペアでの修正を踏まえて、2回目の発表の機会に積極的に自分の考えを伝えようとしている。 C(1):3回目の発表の機会から積極的に自分の考えを伝えようとしている。	/ 5	

Post-Reading Task

Which side of your brain is stronger? Are you a right-brain thinker, or a left-brain thinker?

Read the text and express about yourself by giving some reasons and examples.

Text

According to the left-brain, right-brain dominance theory, the right side of the brain is best at expressive and creative tasks. Some of the abilities that are popularly associated with the right side of the brain include:

- Recognizing faces
- Music
- Color
- Intuition
- Expressing emotions
- Reading emotions
- Images
- Creativity

The left-side of the brain is considered to be adept at tasks that involve logic, language and analytical thinking. The left-brain is often described as being better at:

- Language
- Critical thinking
- Reasoning
- Logic
- Numbers

(1) Make a brief note about yourself below

I am _____

reason (1) _____

reason (2) _____

reason (3) _____

(2) Give a speech to your partner, and take a note about your partner below. (first challenge)

_____ is _____
reason (1) _____
reason (2) _____
reason (3) _____

(3) Change your partner. Give a speech to your partner, and take a note about your partner below. (second challenge)

_____ is _____
reason (1) _____
reason (2) _____
reason (3) _____

(4) Change your partner. Give a speech to your partner, and take a note about your partner below. (second challenge)

_____ is _____
reason (1) _____
reason (2) _____
reason (3) _____

